

アマモリバイバルプロジェクト

(多様な主体の協働による金沢湾のアマモ場の再生、持続的な利用、順応的な管理)

Amamo Revival Project

Multi-sectional Collaboration for Eel-grass bed restoration around Kanazawa bay

マスコットキャラクター: アマモン



多様な関係者が協働するアマモ場再生の枠組み

金沢八景一東京湾アマモ場再生会議がコーディネータ役を務め、市民、NPO・市民団体、行政、漁業者、民間企業、試験研究機関、教育機関など多様な関係者が緩やかに連携・協働してアマモ場の再生活動を進めてきました。

NPO・市民団体

海辺つくり研究会、海をつくる会、BlueLife、金沢野鳥クラブ、ふるさと待従川に親しみ会 ほか

行政

国土交通省(関東地方整備局港湾空港部)、神奈川県(水産課・水産技術センター)、横浜市(環境創造局・港湾局・都市経営局、環境科学研究所、南部公園緑地事務所) ほか

協力組織

横浜市漁業協同組合、東京久米、東洋建設、横浜市の協会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、八景島シーパラダイス、三井アウトレットパーク横浜ベイサイド ほか

教育機関

横浜市立大学、横浜国立大学、横浜市内の小学校、横浜立金沢高校、県立金沢総合高校、県立海洋科学高校 ほか

再生したアマモ場の適切な利用と管理に向けて



野島海岸のアマモ場は、2009年時点で2005年と比べて推定で約2000倍の面積に拡大しました。海の公園でも同じようにアマモ場が拡大する傾向にありましたが、2010年の猛暑で金沢湾のアマモ場は大きなダメージを受けました。また、再生したアマモ場周辺で、他の海の利用との競合問題が発生しているため、関係者が集まってルールづくりに関する話し合いを行っています。私たちは、今後もアマモ場の持続的な利用と順応的な管理の実現を目指して、活動を発展・継承していく計画です。

(空撮写真提供: 神奈川県水産技術センター)

協働で行うアマモ場再生の流れ

Step. 1
アマモ場再生の仲間を集めよう

Step. 2
地元の漁師さんに昔の海辺や生き物のことを聞いてどんな海だったか調べよう

Step. 3
みんなでアマモの増やし方や海の世界を学ぼう

Step. 4
アマモ場の再生に適した場所を探そう

Step. 5
役所に行ってアマモ場再生の手続きを相談しよう

Step. 6
みんなでアマモの種子を採取・選別・保存しよう

Step. 7
みんなでアマモの種子を海に播こう

Step. 8
みんなでアマモの苗床を作ろう

Step. 9
みんなで元気に育ったアマモの苗を海に植えよう

Step. 10
みんなでアマモが元気に育っているか調べよう

Step. 11
アマモ場再生活動の成果をみんなで共有しよう

Step. 12
アマモ場再生の環をもっと広げよう

金沢湾の位置



横須賀港に接する横浜港の南端にあります。横浜唯一の自然海岸である「野島海岸」や、人工島「八景島」、人工海浜「海の公園」などを抱えています。

◆みんなでアマモの種子を採取・選別・保存しよう



◆みんなでアマモの種子をまいたり苗を育てたりしよう



◆みんなで元気に育ったアマモの苗を海に植えよう



◆みんなでアマモが元気に育っているか調べよう



大人から子どもたちへ、専門家から住民へ、「海の森づくり」をリレーしていきます。

- ◆活動開始当初は、海洋環境や生物、土木技術等の研究者や技術者が活動の中心でしたが、活動開始から10年以上経過した現在、**地元の小学生や住民、漁業者のみなさん**が活動の担い手となりつつあります。
- ◆現在、**再生したアマモ場と地域の環**を次の世代に引き継いでいくことを目指して、小学生や親子を対象とした学習会や自然体験活動を展開・支援しています。
- ◆アマモの苗づくりも、2009年までは神奈川県水産技術センターが行っていましたが、2010年からは地元の小学生や住民の方々が中心に行うようになり、そして2012年からは柴漁港内での本格的な苗づくりも始まりました。
- ◆アマモ場の再生とともに魚類の種類や数も増えてきたことで、地元の漁業者もアマモ場再生に関心を寄せ、積極的に協力・参加してくれています。



活動体制

金沢八景一東京湾アマモ場再生会議

NPO・市民団体: NPO法人海辺つくり研究会、海をつくる会、NPO法人BlueLife、金沢野鳥クラブ、ふるさと待従川に親しみ会 ほか

行政: 国土交通省関東地方整備局港湾空港部、神奈川県環境農政部水産課、同水産技術センター、横浜市環境創造局・港湾局・都市整備局、同南部公園緑地事務所、同環境科学研究所 ほか

教育機関: 横浜市立大学、関東学院大学、横浜国立大学、横浜市内の小学校(西柴・金沢・文庫・瀬ヶ崎ほか)、横浜市立金沢高校、神奈川県立金沢総合高校、同海洋科学高校 ほか

その他協力組織: 横浜市漁業協同組合、東京久米、東洋建設、横浜市緑の協会、横浜オリオンロータリークラブ、ライオンズクラブ、八景島シーパラダイス、三井アウトレットパーク横浜ベイサイド、横浜ベイサイドマリナー、磯子環会、トヨタ財団、セブーンイレブンみどりの基金、全労済、日本たばこ産業、東京新聞、神奈川新聞、東京湾の環境をよくするために行動する会 ほか

活動目的

横浜市沿岸部、特に横浜港南端に位置する金沢湾を中心に、海辺の生態系や生活文化、地域社会、さらには海を通じた人と人とのつながりの再生を目指して、市民・NPO、企業、大学・研究機関、小・中・高校、漁業関係者、行政等**多様な関係者が緩やかに連携・協働**して、金沢湾周辺のアマモ場の再生活動や、再生したアマモ場の**持続的な利用**や**順応的な管理**を進めています。

活動場所

横浜市金沢区内の海辺や浅場

(野島海岸、海の公園、横浜ベイサイドマリナー地先など)

横浜市に残る最後の自然海岸である野島海岸、埋立地に造成された人工海浜である海の公園、横浜ベイサイドマリナーに隣接する海域に造成された浅場等で、アマモ場再生活動を展開しています。また、金沢区内の小学校を対象とした出前授業や、海の公園や横浜市立大学キャンパスなどで『海の環境学習会』を継続して実施しています。

活動内容

この活動は、2003年6月から継続して実施しており、1年を通じてアマモの生活史にあわせた再生活動を行うとともに、アマモ場再生の効果を科学的に把握するためのモニタリングを、「海をつくる会」を中心に毎月実施しています。また、2007年からは地元の小学生を対象とした『海の環境学習会』を年3~4回程度開催し、横浜の海辺にすむ生きものの魅力やアマモ場再生の意義や効果などをわかりやすく伝えていきます。さらに、一般公開で開催する『横浜・海の森づくりフォーラム』(年1回)や地元漁業関係者を対象にした『アマモ場再生報告会』などの場で、地域に根付く活動を目指した情報発信を行っているほか、ホームページやブログなどを通じて全国へも積極的に情報を発信しています。

金沢八景一東京湾アマモ場再生会議

(連絡先) 〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼2-4-22 ジュネスサキ202号(海辺つくり研究会内) TEL 045-321-8601 FAX 045-317-9072

ホームページ <http://www.amamo.org/> ブログ <http://umibay.cocolog-nifty.com/blog/> デジタルアーカイブ <http://picasaweb.google.com/amamo8k>

Amamo Revival Collaboration in Kanazawa-Hakkei, Tokyo Bay Area

(Contact point) 2-4-22-202, Hiranuma, Nishi-ku, Yokohama, 220-0023, Japan Phone +81-45-321-8601 Facsimile +81-45-317-9072

(Web page) <http://www.amamo.org/> (Blog) <http://umibay.cocolog-nifty.com/blog/> (Digital Archive) <http://picasaweb.google.com/amamo8k>



<http://www.amamo.org/>